

かのじよは、夏

藤井友紀

登場人物

かのじよ (村上佐千・呉市 出身 ↓ 広島市)

兄・・・・・・・・かのじよの愛する人 (四日市市出身) / かれ・・・・・・・・かのじよを介護する

キミ・・・・・・・・兄の妹と言っている (四日市市 出身)

アナタ・・・・・・・・かのじよの夫 (村上・呉市 育ち ※島根松江市生まれ)

アンタ・・・・・・・・かのじよの元雇い主 (呉市 出身)

ウチ・・・・・・・・アンタのお店で働く給仕 (宮崎都城市 出身)

わたし・・・・・・・・かのじよを介護する (広島市 出身)

・・・・・・・・・・・・・・・・

舞台は、現代の広島市内の介護施設と、過去の戦後間もない四日市市と戦時中の呉市

かのじよ・・・・・・・・認知症のおばあちゃん、心が戦時中の呉市で働いていた時に行ってしまうことがある。
介護施設で、わたしとかれに介護されている

兄・・・・・・・・かのじよが呉のカフェで働いている時に出会った海兵団の男性

キミ・・・・・・・・兄の妹、四日市で空襲に遭い左手が動かなくなる

アナタ・・・・・・・・兄と同じ海兵団。かのじよの友人、後の夫。現代では亡くなっている

アンタ・・・・・・・・かのじよが働いていたカフェの主人

― 序 ―

かのじよと兄

兄は目を閉じて横たわっている

かのじよは兄を見ている

かのじよ、兄のそばへ行こうと

かのじよ ずっと、待って、待って、

かのじよのそばにわたしが来て、

【広島市内 介護施設】

わたし、かのじよの髪を乾かしている

わたし 熱くないですか？

かのじよ …あ、

わたし 熱かったです？

かのじよ 大丈夫よ

わたし もう少しで乾きますからね

かのじよ ありがとう

食器の音がして、盆に急須と湯飲みを片手に持ったキミが現れる

【四日市 キミと兄の親戚宅】

兄 ありがとう

キミ、急須の湯を湯呑みに入れたり、急須に戻したりして冷ましている

キミ まだ熱いかもね。

兄 悪いね。

キミ もう、いいんだって、

兄 情けない。

キミ 情けない。

兄 情けないわけではない。

キミ 情けないわけではない。

兄 情けなくないわけないわけないわけがない、ない！
キミ 何言ってるの？

兄 あ、すまない。

キミ アタシがそうになってたかもしれないんだから

兄 そうならなくて良かった。

キミ そう？

兄 キミが無事で良かった。

キミ 無事かな？

兄 無事だろ、俺の世話まで焼いて

キミ そりゃ焼くよ。

兄 すまん

キミ ねえ、広島の話してよ

兄 …おもしろくないよ。

キミ アタシはおもしろいから。

兄 どこが？

キミ 知らない町が目には浮かんで楽しい。

兄 今はないけど

キミ 本当に？

兄 跡形もなく

キミ …

キミ、急須の湯を湯呑みに入れ、自分で飲み温度を確かめる

キミ いいかも

兄、口を開ける

キミ、急須の口を兄の口へ

兄、咽せる

キミは兄の口から急須を離す

キミ ごめん！ 熱かった？

兄 (咽せながら) ちょうどよかったよ、気管に、入っただけだから

キミ 無理して喋らなくていいから

兄、キミの動かない手を見ている

兄 診てもらいなよ。
キミ 切るって
兄 ……
キミ 次の時、切断しますって。
兄 そう…
キミ 自分が切られるみたい。
兄 俺が切られるより辛い
キミ 本当？
兄 その手が、俺の手のひらにすっぽり包まれる頃から知ってる
キミ ……
兄 小さくてあったかい手だった
キミ 小さくないし、もう冷たいよ
兄 守れなかった、何一つ。
キミ しょうがないじゃない
兄 しょうがないって思えば思うほど悔しいよ
キミ 悔しいの？
兄 悪かったな
キミ もう本当にいいの。
兄 こんなじゃなかったらいい医者に、
キミ いいって、
兄 キミ、出て行っていいんだよ。
キミ ……
兄 いつでもいいんだからね。
キミ ……なにか願いはないの？
兄 願い？ そりゃ、キミの健康、キミのしあわ、
キミ 本当？
兄 嘘言ってもしょうがないだろ
キミ 一番の願いよ
兄 ……だから、
キミ アタシの願いは、願いを叶えること
兄 は？ 俺の？
キミ アタシが入院するまでに教えて。
兄 キミのしあわ、
キミ 広島で暮らしたかったんでしょ？
兄 ……
キミ どんなところが好きだったの？

兄 …海：
キミ …こと違うの？
兄 海の匂いがする
キミ …どんな臭いなの？
兄 …いい匂いだよ
キミ …行ってみたい
兄 …：
キミ …海はあるでしょ
兄 …行けないよ。
キミ …いつか連れてってよ
兄 …いけない
キミ …ねえ

兄、目を閉じる
キミ、右手を兄の鼻あたりに持つていく

キミ …あったかい

— —

【広島市内 介護施設】

わたし、箸を持つ仕草、反対の手はお皿を持っているような形に
かのじよは兄を見ている

わたし 村上さん、村上さん、そろそろごはん、食べませんか？ 今日
は村上さんのお好きなカレイの煮付けですよ。生姜が効いていて、
おいしいと思います。私、骨、取るの上手いんで安心してくだ
さい。はい。

かのじよ …なんで？
わたし …え？ あ、ほら身と骨、きれいに分けてるでしょ。魚を
きれいにほぐせる人は、人の扱いも上手いって言うんで、Wで安
心してください。
かのじよ …なんで？
わたし …食べやすいかなって、あ、勝手にほぐしてすみませ
ん。
かのじよ …なんで勝手に、うちに断りもなく
わたし …すみません。こっちはまだほぐしてないんで、

かのじよは、夏

かのじよ あの人はどこでどうしとるの？

わたし …あの人…またそのお話ですか、それはもうわたしも知りたいです
かのじよ まあ、あなたも？

わたし ですから、あとで一緒に考えることにして、先にごはんどうでしょう？
かのじよ ごはんですか

かのじよ、わたしの方を見る

わたし カレイの煮付けです。

かのじよ カレイの煮付け好きなんよ。

わたし 良かった。

かのじよ ほんでも、身と骨、分けんでもえかったのに。

わたし すみません。

かのじよ ええわ、ほんまきれいに分けとるね、ありがと。

わたし 良かったです。

かのじよ 食べた後、一緒に考えてね

わたし …はい、考えましよう

かのじよ、魚を食べている仕草

わたしはそれを見ている

わたし 村上さん、飲食店で働いてたんすね。

かのじよ 言うたかいね？

わたし ええ、平和公園の近くで、

かのじよ 違うわいね、呉よね。

わたし え、呉でしたっけ？

かのじよ ほうよね、中通りのカフェーで給仕さんしよったのよね。

わたし えー、あれ、そんな過去がありましたのすね。

かのじよ ブラジル食堂いうとこよね。

わたし へえそうなんすね

かのじよ ハイカラな食堂いうか、ほんま、カフェーよ、カフェー

わたし それ、いつ頃のことですか？

かのじよ いつ頃いうて、だいぶ前よね、うちが呉に住んどった時じゃけ、

わたし お住まいは市内じゃなかったんすね

かのじよ 呉市内よね。

わたし 呉の人だったんすね。

かのじよ 呉人よ、うちがあそこでお給仕しよった頃はようけ人が来て賑やかでね、軍艦が入港してきたら、そもそも猫の手も借りたいぐらいの忙しさよ。

わたし 軍艦ってヤマトとか？

かのじよ 榛名とか日向とか伊勢、葛城、天城

わたし そんなに？

かのじよ いろんな人がようけ停まっとつたんよ。

わたし たのしかったですか？

かのじよ たのしかったんじやろうか：

わたし すみません。

かのじよ なにが？

わたし 戦時中ですよね？

かのじよ ええこともあったわいね、失礼なね

わたし ごめんなさい

かのじよ そんな時に会うたんよ、彼と

わたし 旦那さんとの出会いですか？

かのじよ 違うわいね、あの人よねえ

わたし あ、よくおっしゃってる、

かのじよ なんね、そんなに言うたらんわいね

アナタとアナタがかのじよを見ている

かれが遅れて来る

かのじよがかれに気づく

【呉 ブラジル食堂】

アナタ 佐千、オレの同僚

わたし 村上さん、新しい人ですよ

かれ 昨日からこちらで働かせてもらってます。

かのじよ 彼は広島の人じゃないの？

アナタ ようわかって、三重の四日市じゃて

かのじよ 四日市で、まあ遠いところから

アナタ さっちゃん、お冷や運んで、

アナタ 忙しいね

かのじよ おかげさまで

かのじよ、どこかへ行こうとする

【広島市内 介護施設】

わたし 村上さん、どうしたんです？

かのじよ お冷や、

わたし お水ですか？

かのじよ 運びます

わたし 喉渴きました？

かれ あ、持って来ます、

かのじよ それは悪いでしょ

かれ 僕の仕事ですので

かのじよ 自分で持って来るわ。

わたし じゃあ、私が持ってきますね。

かのじよ ええのに、

かのじよとかれ

かれ 村上さん、

かのじよ …

かれ 村上さん、

かのじよ …

かれ 村上さんじゃなかったでしたっけ？

かのじよ 佐千です。

かれ 村上佐千さん

かのじよ 佐千です。

かれ 佐千さん

かのじよ ごめんなさいね

かれ え？

かのじよ うち、火傷したでしょ

かれ 火傷！ いつしたんですか？

かのじよ もう、あの時よねえ

かれ あの時？

かのじよ 空襲よね

かれ ああ、空襲、大変な目に遭われたんですね。

かのじよ ごめんなさいね

かれ いや、佐千さんのせいじゃないですから

かのじよ 火傷がひどくて、会えなかった

かれ 誰に？
かのじよ 誰って、
かれ 知ってる人？
かのじよ もう、約束したじゃないね
かれ はあ
かのじよ ようなったら会おう言うて

わたし、お水を持ってかのじよのところへ

わたし 村上さん、おまたせしました。

かれ 佐千さん、きましたよ、お水

かのじよ お水？

わたし 飲まないんですか？

かのじよ はい。

かれ 佐千さん、飲んどきましよう、あとで渴きますから
かのじよ そんなに言うんなら

わたし、お水をかのじよに渡そうとして、

アンタがお水を持ってゆく

かのじよ、アンタを見つめる

— 二 —

兄とキミ

兄、横たわっている

キミの左腕は見当たらない

キミ 「これは違うんだよ。これはただの食あたりなんだよ」

アンタがお水を持ってゆく

【呉 カフェーブラジル】

キミ 血の気のない唇がそう動きました。兄の嘘があまりにも大胆でしたので、
アタシも重ねて嘘を吐きました。「それはしんどいね。なにを食べたの？」っ

かのじよは、夏

てそうしたら調子づいた兄が「だから当分、ご飯は食べられない、俺の分はキミが食べて」「キミはたくさん食べて元気をつけるんだよ」と大丈夫じゃない兄が心配してくれるのです。そんな時、アタシは兄の口と鼻の上に手をかざして、兄の体の中から流れ出る熱い息を触るのです。アタシはそれがいつまでも続くように思っていました。兄はアタシを寂しがらせまいと嘘をついてくれているんじゃないか：そんな兄に、なにかできることはないのか、考えておりました。兄はよく広島にいた頃の話をしてくれました。：ここから遠く離れた広島はどんなにステキな街だったのか、想像を巡らせていました。兄に聞くと「ここもいいところだろ」とアタシに背を向け答えます。だんだん兄は口にするものが減ってゆき、最後はお水さえ、口にしたくないようでした。

アンタ、お水をキミに渡す

アンタ どうぞ。

キミ、お水を見つめる

キミ けれど、口数は多くなりました。アタシが聞かずとも話すようになりました。よつほど心残りがあったのでしょうか。「彼女に会いたい」と言いました。彼女の体には空襲で焼かれた跡がある。呉のカフェーで働いていた、とポツポツと話しました。彼女が働いていたカフェーのこと、彼女はあの時、広島にいたと、兄は変わり果てた広島町を歩き、彼女を探したと聞きました。彼女は生きてるかどうかさえ分からない。それでも退院したら兄に代わって、広島へ探しに行こうと思っていました。

キミ、お水を飲む。

キミ アタシが退院した時、兄はもう目を開ける力もなく息も穏やかでした。アタシは姿を見られないことに安堵していました。兄は夢を見たそうです。彼女とこれからのことを話す夢。だけど、どうしてか、彼女は老女で、うまく話ができない、と。「それは夢だからでしょ」と言ったのですが、「そうだね」と聞こえるか聞こえないかぐらいの小さな声で答えました。その晩のうち、兄は息を引き取りました。息を出さなくなったのです。亡くなる前までの激しい息が嘘みたいに、大きな息を吐いたと思ったら、静かになって：そのことを、貴女に伝えたいと思っておりました。

アンタ …私に？

キミ このカフェーに勤められてて、その火傷も、

アンタ そんな人、ここらにはたくさんおりますよ。

キミ あなたは海兵団の方と親しく、

アンタ そうですね。そんな人、ここらじゃ珍しくありませんよ。

キミ その、そのような人たちはここへ来られたりするのでしょうか？

アンタ 来ることもあるかもしれないけど、そうそう来ないわよ。

キミ そう、ですか。

アンタ …その、あまりお役に立てなくてごめんなさいね。

キミ いえ、いろいろ聞いていただき、ありがとうございました。

アンタ あの、お身体は大丈夫？

キミ え？

アンタ あ、ごめんなさいね、

キミ いえ、

アンタ よかったらコーヒー飲んでって、

キミ そんな、お構いなく、

アンタ いいのよ。(奥に) ちょっと、

ウチが来る

ウチ ご注文でしょうか？

アンタ コーヒーをおねがい。

ウチ かしこまりました。

ウチ、去る

キミ、ウチを見ている

アンタ あの子は最近入った給仕の子ですよ。

キミ 最近ですか…

アンタ 働かんと食べていられないからね。あなたは働いてるの？

キミ 親戚のところだ。

アンタ それは良かったですね。

キミ はい。慣れない事ばかりで、よく怒られています。

アンタ はじめは誰でもそうですよ

キミ お仕事ですからそうも言っていられません

アンタ あまり無理しちやだめですよ。

キミ 空襲で焼け出された時から、世話になりっぱなしですから

アンタ いい親戚なの？

キミ …それはもう申し訳ないくらいに良くしてくれて、本当は兄が生きていたら良かったんですけど、

アンタ あなたが生きていただけでも良かったじゃない。

キミ そうだといいんですが…

アンタ そうですよ

キミ あの、またここに来てもいいですか？

アンタ いいですよ、こんなところでよろしければ。

キミ こんなところだなんて…いいところ、兄が気に入るわけです。

アンタ 随分変わりましたけど、そう言ってもらえると嬉しいわ。

キミ 変わっても、気に入ったと思います

アンタ …お兄さんのこと好きなのね

キミ …優しい兄でした。彼女も兄のことを知りたいと思うんです。

アンタ そうかもしれないけど、

キミ アタシだったら知りたいです。

アンタ ずっと待っていた人が亡くなっていたと知ったら、それはお辛いんじゃない？

キミ それでも知っておいてもらいたいんです。

アンタ お兄さんに頼まれたから？

キミ そう、です。

アンタ あなたもお辛いんじゃない？

キミ なんかせいません、

アンタ なにが？

キミ いろいろ思っていただけで、

アンタ 私はただ気になっただけで、

キミ いえ、ありがたいことです。

アンタ そんなお礼言われることでもないですよ

キミ あの、もしよろしければ、これ貰っていただけませんか？

キミ、包みをアンタに差し出す

アンタ え、そんな、

キミ 貰ってください。

アンタ 悪いわ。

キミ お醤油です。

アンタ お醤油？

キミ うちの親戚、お醤油造っているんです。

アンタ 私、そんないただけるほど何もしていませんよ

キミ 三重まで持って帰れませんので、受け取ってください。

アンタ ありがとうございます。

ウチ、コーヒーをキミへ

ウチ お待たせしました。

アンタ どうぞ、

キミ ありがとうございます

ウチ なんか香ばしい匂いしません？

キミ うちのお醤油です。

ウチ 醤油がこんな匂いするんですか？

キミ うちのは濃いので。

アンタ こちら、四日市から来られたお客様

ウチ 四日市！ 遠いところから来られたんですね。

アンタ ここで働いていた子を探しに来られたの。

ウチ うちの前の人ですか？

アンタ もっと前よ。

ウチ すみません、宮崎から来て間もないので、前の人だったら、知っちゃるんですけど。

キミ いいんです。ありがとうございます。宮崎もまた、遠いですね。

ウチ いえ、飛び出して来たようなもんですから、

キミ 広島にご親戚が？

ウチ いえ、親戚は宮崎にちびつと：あまりご厄介になれんで、働けるところを探しているんなどころを転々としちよりました。

キミ そうでしたか。それは大変でしたね。

ウチ 今は、てげーいいところに拾ってもらえたんで、良かった方です。

アンタ まあ、そんなに褒めてくれて

ウチ 感謝しちよるんです。お客さんも広島に住まわれるんですか？

キミ いえ、アタシは人を探しに来ただけで、

アナタが来る

ウチ いらつしやいませ
アンタ あら、今日は早いじゃない
アナタ 休憩中かと思っただけど、
ウチ そういえば休憩中でした

アナタ、キミを見る

アナタ また給仕の子雇うの？
アンタ いいえ、お客様
アナタ もしかして、遠くから来た？
キミ・・・そうです。
アナタ どこから来たの？
キミ 三重の四日市です。
アナタ 四日市、遠いところから、ようこそ、
アンタ (ウチに) 村上さんをご案内して、
アナタ ごめん、邪魔したね。
ウチ こちらへどうぞ。すごいですね。
アナタ 醸す空気でわかるんじや。
ウチ なんよ、それ

ウチ、アナタを奥へ促す

キミ アタシ、そろそろ行きます。
アンタ いいのよ、まだゆっくりしてって
キミ お客様来られましたし
アンタ あなたもお客さんよ。それにあの人は常連だからいいの
キミ 長いんですか？
アンタ ここが変わる前から来てる、もう古株よ
キミ 古株さん、

キミ、離れたアナタを見る

アンタ どうしたの？
キミ どうしてアタシのこと分かったのかなって
アンタ 匂いかしら？
キミ アタシ、どんな臭いがしますか？

アンタ いい匂いよ、ここら辺の人とは違う
キミ ここは海の匂いがしますね
アンタ ええ、時々、潮臭いって感じるくらい
キミ 兄は好きだったみたいですよ
アンタ もしよかったら、港に行ってみたらどうかしら？ 夕暮れも絵になる
港だから。

アンタ、キミから離れ、アナタのところへ行く

キミ 好きだったんだ、ここの匂いが

キミ、アンタとアナタを見る

キミ さようなら

キミ、去ってゆく

— 三 —

【広島市内 介護施設】

かれ、一升瓶を持っている

かのじよ ええ香りがするね。

かれ 佐千さん、髪、まだ濡れてますよ

かのじよ お醤油でしょ

かれ あ、よくわかりましたね。

かのじよ よう使う

かれ それにしてもですよ

かのじよ わかります。

かれ うち親戚が四日市にいて、醤油造つくってるんです

かのじよ 四日市、

かれ あ、三重県の、

かのじよ 木桶？

かれ ん？

かのじよ 木桶でつくられとるの？

かれ 本当、よく知ってますね
かのじよ 木桶のお醤油、好きよ
かれ うちのはちよつと濃いと思いますけど
かのじよ 木桶にはね、長いこと棲んどる菌がおってね、それが長いことかけ
てね、ええ味にしてくれるんよ
かれ なんか聞いたことある
かのじよ なんでも殺菌殺菌でね、いろんな風味が削がれてくからいけん
かれ 変な菌も混ざりますから
かのじよ 木桶もね、菌の具合を見てないといけんし、同じ風味を毎回造れる
もんじゃないから、大変な作業でね、
かれ 佐千さん、醤油屋の人？
かのじよ お醤油、造ろうとしとったからね。
かれ そうだったんですか。
かのじよ 納豆も食べるようにしとった
かれ それはいい心がけでしたね
かのじよ 今も納豆食べる時、ええんかいのうって思うんよ
かれ いつ頃、お醤油つくりたいって思ってたんですか？
かのじよ いつ頃って、あの人が言うた時から、
かれ あのうって、旦那さん？
かのじよ うちの夫はそんなこと言いませんよ
かれ あのうって誰ですか？

かのじよ、かれをじつと見る

かのじよ なんで聞くの？
かれ え、誰のことかなと思って、すみません
かのじよ なんで謝るん？
かれ 調子に乗って聞いてしまつて
かのじよ そうじゃのうて、
かれ ぼく、他にやらかしました？
かのじよ 言うたのはあなたでしょ。
かれ え？
かのじよ 冗談だったの？
かれ 冗談もなにも、
かのじよ うち、あなたに言われて、いろいろ調べたんですからね
かれ それは、ありがとうございます。

かのじよ どういたしまして
かれ その、調べてどうでした？

かのじよ 大変じゃと思うけど、あなたとだったらやってみたいって思うた
かれ なにを？

かのじよ お醤油でしょ？ 味噌じゃないでしょ？

かれ あ、はい、お醤油です。

かのじよ 独特よね

かれ まあ、よく言われてるみたいですね

かのじよ あなたがくれたお醤油。

かれ うちの親戚のは、業者用で、あんまり出回ってないですからね。

かのじよ そうなの？

かれ 佃煮屋さんとか焼肉屋さんとかに出荷してるんです

かのじよ 食卓には並ばんの？

かれ 付き合いのある人にはあげてるみたいで、親類のぼくにも送ってくれる

かのじよ うちらがつくるのは、食卓に並べよ、

かれ いや〜どうかな

かのじよ もう造る前から弱気じゃ困るわ

かれ あ、すみません

かのじよ そんなに謝らんでも

かれ そんなにつくりたかったんですね。

かのじよ ほうよ、つくりたかったんよ、あなたと

かのじよ、かれを見つめる

わたし、かのじよのそばに

わたし 村上さん、風邪ひいちゃいますよ

かれ あ、すみません、話に夢中で

わたし 村上さん、髪、乾かしますね

かれ ぼく、やりますよ

わたし それ、片してからおねがいします。

かれ はい

かれ、奥へ

わたし、かのじよの髪を乾かす

かのじよ 何かあったんですか？

わたし え？
かのじよ いつもより遅う来て、
わたし 心配してくれたんですか？
かのじよ だれかお悪いの？
わたし まあ、大したことないんですけど
かのじよ うちもずーっと夫の看病してましたからね。
わたし 旦那さん、ご病氣、長かったですか？
かのじよ 亡くなってからだいぶ経つけどね。
わたし 大変でしたね。
かのじよ 夫にはようバイク乗せてもろうて海とか山とか連れてってもらって
ね、ヘルメットも付けんこ
わたし 仲良かったんですね
かのじよ どうですかね
わたし いろいろお出かけてるじゃないですか
かのじよ いろいろ連れてってはくれました
わたし 仲良かったんじゃないですか
かのじよ やっぱり言えませんよ
わたし ご夫婦だったんですよ
かのじよ 夫婦いうてもね、子どももおらんでね、夫もね、頼まれたからじゃ、
いうてね、結婚したもんですから
わたし 後から育まれたんですね、愛
かのじよ もう、そんな大そうなことじゃないですよ、夫婦いうても、それぞ
れでしょうが
わたし すみません。なんか差し出がましくて
かのじよ ええの、ええの、夫なりにね、大事にしようとしてくれとったんで
すよ
わたし いいですね
かのじよ 結婚されてるの？
わたし してないです。
かのじよ お子さんは？
わたし …いますけど、
かのじよ おいくつ？
わたし 六歳です。
かのじよ 女の子？
わたし 男の子です。
かのじよ ええね。

かのじよは、夏

わたし　なんで、

かのじよ　あなた、子どもおりそうな匂いがしましたから

わたし　え？　なんか臭いますか？

かのじよ　いい匂いよ

わたし　どんな臭いなんです？

かのじよ　んー、新しい匂い

わたし　新しいですか？

かのじよ　あれ、海の匂いがする、

わたし　ああ、シロギスを天ぷらにしているんですよ

かのじよ　：

わたし　米子に釣りに行った人が百匹ぐらい釣ったって、もらったんですよ。

かのじよ　誰？

わたし　うちの息子と友達の、お父さん

かのじよ　：

わたし　釣りが好きで、船も持っていて、海に出て、鯛とかも釣るんですよ、鯛

は一度だけいただいたことがあって、釣りたての鯛、食べたことあります

か？　今まで食べてた魚はなんだったんだろうってぐらい、身が引き締まっ

ていて、弾力があって、本当に生きていたものを食べさせていたただいている

んだなって、

かのじよ　あなたはどうしたかったん？

わたし　え？

かのじよ　行きたかった？

わたし　どこに？

かのじよ　そのお父さんと？

わたし　わたしにはいけませんから

かのじよ　思うことないの？

わたし　そんな、ない：どうでしょう

かのじよ　探してしまわん？

わたし　今はもう、そんなことないですけど

かのじよ　ほんまに？

わたし　働いて生きていかないと

かのじよ　うちもそう思うたよ、

— 四 —

アナタ、白い小さな包みを抱いて、かのじよのそばへ

【広島市内 公園】

アナタ ちよつとのう、紅葉がきれいじゃろうが
かのじよ ……

アナタ 風が強いので、寒いかな？

かのじよ ……

アナタ 何を見とる？

かのじよ ……

アナタ 分かるで、

かのじよ 分からん

アナタ 身体、大丈夫か？

かのじよ 大丈夫

アナタ だるいんじゃないか？

かのじよ アナタねえ、うちの心配ばかりしとらんと、自分の心配したらど
うかね？

アナタ 俺は心配ないわ、海兵団はのう、鍛え方が違うんじゃない

かのじよ 海兵団いうても、ようけ死なれとるで

アナタ ……

かのじよ ……ごめん

アナタ ええ

かのじよ 酷い言い方じゃ、

アナタ ええわもう

かのじよ アナタがうちを世話する義理ないからね

アナタ また言う

かのじよ うちはこういう体じゃけ、

アナタ あいつに頼まれた言うたじゃろ。

かのじよ あの人、ほんまに言うたん？

アナタ そんだけ心配しとったんよ

かのじよ 死なん言いよった、うちと約束したん

アナタ ……

かのじよ もう約束もなんもないけど。

アナタ 仕方ないじゃろ

かのじよ あの日から一秒も過ぎとらん。

アナタ …まだ痛むんか？
かのじよ …
アナタ このう、俺の好きなどこじやったん
かのじよ よう綺麗にしたね
アナタ 失対の人らよ。前より綺麗じゃわ、綺麗すぎるで
かのじよ なんで好きじやったん？
アナタ 考えたことなあ
かのじよ ほうよね
アナタ 賑やかでの、焼きたてのパンの匂いとかしとったんじゃ
かのじよ ほうね
アナタ 親戚とか連れての、ゆっくり来てみたい思うとったんじゃ
かのじよ 島根のね？
アナタ 叶わんかったけど
かのじよ ……
アナタ 木の葉が舞いよる
かのじよ 風が強いわ
アナタ 風の音しか聞こえん
かのじよ 葉っぱが揺れる音も聞こえるじゃろ
アナタ 風のが強い
かのじよ ほうですか
アナタ 連れて来れて良かったの
かのじよ ……
アナタ 連れて来れて良かったの
かのじよ 二回も言う
アナタ ええじゃろ
かのじよ ちゃんと聞いとるけん
アナタ ……
かのじよ ちゃんと聞いとる
アナタ 二回も言う
かのじよ もう
アナタ ごめん
かのじよ 謝るな
アナタ こいつもそう言うてくれるかの？
かのじよ 言うてくれんよ、何も
アナタ なんて言うんかの
かのじよ なんじゃろ

かのじよは、夏

アナタ わからんこと多いの
かのじよ ええんよ
アナタ ええて？
かのじよ 別れてください
アナタ ・ ・ ・
かのじよ 別れてください
アナタ 二回も言う
かのじよ チャカさんという
アナタ こいつの前で言うな
かのじよ こいつの前じゃから
アナタ こいつが最後の子どもよ、
かのじよ ・ ・ ・
アナタ 髪、ぐしゃぐしゃで
かのじよ あ、
アナタ 風、強いのに、寒くない？
かのじよ 鼻水出とるよ
アナタ ほんま？
かのじよ ほんま
アナタ よう出とる、戻るか？
かのじよ もうちよつと、おろ
アナタ ええで

アナタ、かのじよの手を握る
かのじよ、アナタの手の冷たさに驚くが、握り返す

— 五 —

【広島市内】

アナタとキミ

キミ 最初はタクシーの運転手してたんです。
アナタ そうだったんじや
キミ そのタクシーでお伊勢参りにも連れてってもらったり
アナタ あいつらしいの
キミ でもその帰る途中、津市で止まってしまつて、

かのじよは、夏

アナタ ガス欠？

キミ そうなんです、兄は近くで自転車を借りて、そこから二時間ほどかけて、同業者のところまで、一斗缶を分けてもらって、やっと帰れたんです。

アナタ 便利なんか、不便なんか、

キミ いい思い出です。

アナタ ええね

キミ とほほなことばかりなんですけど

アナタ 楽しそうじゃね

キミ ……そうですかね。

アナタ キミのことよう心配しとったよ

キミ そうなんですか

アナタ 親戚の家に行け言うのに、行かんって

キミ 兄が帰って来る家で待ちたかっただけです

アナタ あいつはそういうの分からんから

キミ 随分、心配かけてしまいました

アナタ その大変でしたの

キミ みんなそうですよ

アナタ そう言われちゃそうですよ

キミ アタシは、恵まれ過ぎているんです。

アナタ ほうじゃったら、あいつも安心しとるよ

キミ でも、勝手に頼んで嫌だわ

アナタ そう言うてやるな。

キミ わがままなことはわかってます

アナタ 己の足らずもよう分かっるとる

キミ あ、ありがたいと思っっています

アナタ そんなん思うてもらう資格はないんじゃ。ワシら海兵団なのに、キミ

らが空襲で苦しんだる時になんもできんこ。

キミ それはしようがないじゃありませんか。

アナタ ワシ、元々島根のもんじやったん。親父の実家が島根にあつての。家

族、みんな島根に戻つとつたんじやけど、たまたま乗つとつた列車が、海軍

の基地近く走つとつた時にの、襲撃されての

キミ ……

アナタ なんも助けられんかったんが申し訳のうて、

キミ ……

アナタ ごめんの、勝手よの、なんもできんよりは思うて、勝手になんとかし

よんじや

キミ それはアタシもです。

アナタ キミもなん？

キミ ここはいいですね。

アナタ どころが

キミ 海が近くにあつて、こっちにだつてありますが、穏やかなかわい海。気候も穏やかで、ここがあの人、兄のいたところなんだって思いました。

アナタ あいつから聞いた？

キミ はい。兄はここで醤油を造ろうとしていたんですよ

アナタ ほんまに？ 初めて聞いたわ

キミ 地元で親戚が醤油屋をやっています、空襲で焼け出されたアタシの面倒を見てくれて、本当は兄が継ぐ予定でした

アナタ その醤油屋を広島で？

キミ 広島に、恋人がいて、彼女と一から造りたいからって、

アナタ えらく地に足のついてない、

キミ もう、亡くなる前に聞いた夢物語なんですけど

アナタ 夢になつてしもうたね

キミ 幻ですよ、醤油屋も、兄の恋人も

アナタ 恋人？

キミ 探しているんです。

アナタ 探してどうするん？

キミ 兄のことを伝えたいんです。

アナタ どうじゃろう

キミ どうって

アナタ ずっと待つとつたら、

キミ 亡くなつているということを知つて欲しいです。

アナタ キミはええかもしれないけど、聞いた方はどうじゃろう

キミ アタシだったら聞きたい

アナタ キミは彼女じゃない

キミ 兄も望んでいると思います。

アナタ あいつが望むかの？

キミ このまま見つからないかもしれませんが

アナタ おるよ

キミ え？

アナタ あいつに頼まれたんじゃ、彼女のこと

キミ 本当にアナタに頼んだのですか？

アナタ 何度も死ぬ思いをしたんじゃ。そのたんびに、頼まれて

キミ 会えますか？

アナタ キミが彼女に会うの？

キミ それが兄と、アタシのねがいです。

アナタ …

キミ 会わせてもらえますか？

アナタ …聞いてみるわ

キミ 聞く？

アナタ 彼女が会いたい言うんなら会わせてあげる

キミ …わかりました。

アナタ 俺も勝手じゃった、彼女の気持ちは彼女にしか分からん

キミ ありがとうございます

アナタ でも死んだことは俺から伝えさせてくれんか

キミ それは、

アナタ 俺から伝えたいんじや

キミ …

アナタ ええか？

キミ …はい。

アナタ すまんの

キミ いえ

アナタとキミの前をかのじよが通り過ぎる

かのじよ、キミを見る

キミ、かのじよを見る

わたし、かのじよのそばへ

【広島市内 介護施設】

かのじよ ある日、うちの夫が連れて来たんです。

わたし どなたか連れて来られたんですか？

かのじよ 妹言うと思った、

わたし 旦那さんの妹さんですか？

かのじよ あの人の妹

わたし あの、あの人！

かのじよ ずっとうちを探しよったって

わたし あの人の妹さんが？

かのじよ 知らなかったから、急じゃったし、妹おるって聞いたのに情け

かのじよは、夏

ないです。なんの気遣いもできんかった。

わたし 急ですと、難しいですよ

かのじよ あの子、爆弾で片手のうなっとなるのに、うちにお土産いうて縦長の包みをくれました。

わたし 何をもらわれたんです？

かのじよ 受け取った時の感じ：

わたし どうしたんです？

かのじよ 落としそうになりました。しばらくは開けられませんでした。

わたし 何が入っていたんです？

かのじよ うちが会うてみたいって言うてしもうたから

わたし その妹さんって、どう言う人なんですか？

かのじよ …ええ子みたいじゃったけど、

わたし いい人じゃなかったんですか？

かのじよ うちだけじゃなかった

わたし 妹なんですよね？

かのじよ うちは、なんであの子じゃなかったんじやろうって

わたし 何か言われたんですか？

かのじよ 何言いよったかの？

わたし 憶えてないんですか？

かのじよ あの匂いは忘れられん。

わたし 匂い？

かのじよ あれね、ぶりの照り焼きじゃったじやろう

わたし お昼ご飯ですか？

かのじよ お醤油かけたん

わたし ちよっと濃いかったですか？

かのじよ 濃いかった、よう知つとる匂いでした。

わたし よく使ってたんですか？

かのじよ 独特の、溜醤油よ、濃厚な旨味と甘みがあったでしょ

わたし そこまでは分かりませんが、

かのじよ 調整の時、塩水使うとらんのよ

わたし そんなにわかるもんなんですか？

かのじよ 初めて口にした時も独特じゃ思うたわ

わたし 私も濃いい醤油、食べたことあります

かのじよ どこで？

わたし 祖母の家、よく卵かけご飯を食べさせてもらってて、その時の醤油が濃いかったなって。

かのじよは、夏

かのじよ 同じじゃった？

わたし 同じと言えば同じ・・・違うと言えば違う

かのじよ なんねえ

わたし そんな憶えてないですよ。村上さん、余程思い入れがあるんですね。
かのじよ 入れたつもりはないんです。

わたし 好きってことですよ。

かのじよ あの人のこと疑うたことはなかったんじゃけど、

わたし 疑うって？

かのじよ ずうつと想うとつたからね、急にね、急に何ねえって、今も思うと、
腹が熱くなるんよ

わたし お腹、炎症してるんですか？

かのじよ お腹の中が燃えとるみたいなん

わたし そういうことあります、大事に思ってるから

かのじよ なんでなんじゃろう。

かれ、かのじよの元へ

かれ 佐千さん、こんにちは

わたし 今日は早いですね

かれ はい、渡邊さんもう僕に任せてください

わたし じゃあ、村上さん、また明日

わたし はい、ありがと

わたし、去ってゆく

かれ なに話していたんですか？

かのじよ 知つとる味じゃった。

かれ なんです？

かのじよ お醤油。

かれ 珍しい、うちの親戚も喜びます。

かのじよ 親戚の誰が喜ぶの？

かれ 親戚、みんなですよ。親戚の醤油、あまり一般に出回ってないんで。

かのじよ みんなって、妹はおる？

かれ 妹？ 僕の妹ってことですか？

かのじよ そう

かれ 残念ながら妹はいません

かのじよ ほんまに？
かれ 兄は二人いますけど
かのじよ お兄さん？ 妹おる言うたでしよ？
かれ 言いましたっけ？
かのじよ 前に話してくれたじゃないね。
かれ そうでしたっけ？
かのじよ 手紙、送りよったじゃないね、妹が心配じゃって、
かれ いや、
かのじよ ほんま、妹思いな人なんじゃ、思うたよ
かれ いや、それ、
かのじよ 妹じゃなかったら何？
かれ 何って、彼女？
かのじよ 彼女？
かれ いや、手紙、ラブレターかなって？
かのじよ 手紙なんか：燃えてしもうたわ
かれ ：佐千さんは、ご兄弟いらっしやったんですか？
かのじよ うちは、あれ、話してなかったですか？
かれ はい。
かのじよ 兄と姉と歳の離れた弟がいましたけど、みんな幼いうちに亡くなつて、うちだけが無事に育ったんよ。
かれ じゃあ、ご両親に大事にされたでしょう。
かのじよ はい、それはとても。
かれ 僕もまあ、
かのじよ そうですよ、早くに亡くされたんですもんね。
かれ え？ いや、まだ健在です。
かのじよ あら、ごめんなさい。
かれ いいんです
かれ 佐千さん、四日市に行ったことあるんですか？
かのじよ ないですよ。
かれ 行ってみたいとか？
かのじよ 行ってみたいですよ、あなたが生まれたところでしよ。
かれ いや、僕は広島生まれ、
かのじよ お祭りが派手じゃと聞きました。
かれ 昔のことですよ
かのじよ 行ってみたいですよ、
かれ そうか、連れて行ってあげればいいんですけど、

かのじよ そんな無理は申しません。
かれ どうしたんですか、しおらしい
かのじよ 意地悪なね、ふつうです
かれ いつもわがままじゃないですか
かのじよ うちはそのなにあなを困らせてますか？
かれ いえ、いいんですよ、わがまままで、できんことはできんって言いますし、
かのじよ お優しいお人ですね。
かれ いやあたりまえです。
かのじよ あたりまえだったんですか？
かれ え？
かのじよ そんなもんだったんですか？
かれ どうしたんですか？
かのじよ 誰にでもそうなんですか？
かれ いや、人によっては、違いますよ！
かのじよ …ごめんなさい
かれ いやいや、佐千さん、怒ったんじゃないですから
かのじよ あなたのこと、よう知らんのんですね、うち
かれ そんなに落ち込まないでください。
かのじよ もっと知りたかった、もっと分かったかった、
かれ これから知ってくださいよ、僕のこと
かのじよ いいんですか？
かれ いいですよ、お安い御用ですよ
かのじよ …お安くないんですよ
かれ、かのじよを見ている
かのじよ、キミを目で追う

— 六 —

キミ、一升瓶を抱え、歩いている
【呉 カフェーブラジル】
ウチ、アンタにコーヒーを渡す
アンタ、コーヒーを香り、飲む

アンタ ……んー

ウチ やった？！

アンタ 惜しい！ 香りはまあええけど、味が、来んのよ。

ウチ 味がしないってことですか？

アンタ 味はあるけど、鮮烈に來ないというか、

ウチ 焙煎の時、生焼けやったんかな

アンタ 浅煎りは加減が難しいからね

ウチ また焙煎してもいいですか？

アンタ 気の済むまでやりんさい

ウチ 無駄にたくさん使っちゃるけど、大丈夫ですか？

アンタ ええよ、昔と違って手に入りやすくなったけん。それに無駄じゃない

ウチ ありがとうございます。

アナタが来る

アンタ いらっしやい。

アナタ 休憩中？

アンタ 大丈夫ですよ。

アナタ ちょうど、淹れよったんじや

ウチ 研究中なんです。

アナタ ええ匂いしよるけど

アンタ 問題は味

アナタ 大事なのは匂いじゃないの？

アンタ 飲み物ですから、味ですよ。

アナタ 味は人によるんじゃないの？

アンタ あると思うけど、それを越えた味が出てこそ、コーヒーなんですよ。

ウチ 本物のコーヒー使えるようになったからには、美味しい物を出したいです！

アナタ そりゃ楽しみじやの。

アンタ いつものにします？

アナタ ほうじやの

ウチ 少々お待ちください

ウチ、奥へ

アナタ 変わってくの

アンタ 何が？

アナタ コーヒーなんか匂いがよけりやええ思うとった
アンタ 聞き捨てならないわね
アナタ 味を追求するもんとは思わなかった
アンタ それは私もですよ。あの子が勝手に工夫しだしたんですよ。
アナタ 楽しそうじゃの

キミ、立ち止まり、アンタとアナタを見ている

アンタ あら、お久しぶり
キミ ご無沙汰してます
アナタ キミはお変わりなく？
キミ はい、皆さんも。
アンタ 何年ぶりかしら、
キミ よろしければ
アンタ いつもいいのに
キミ こんなことぐらいしかできないので
アナタ ええ醤油じゃね、うまい言うとった
アンタ アナタもいただいたの？
キミ 良かったら、これ、
アナタ ええよ。
アンタ うちが貰いすぎてるから、大丈夫よ。
アナタ うちが貰う義理がなあ。
キミ ……そうですか。
アナタ ええ匂いがするの（コーヒーの）
アンタ そんな言い方せんでも。
アナタ お気持ちだけ頂いとくわ。
キミ はい。

ウチが、コーヒーを持って来る

ウチ あら、お久しぶりです。
キミ お元気そうですね。
ウチ それだけじゃないですが。どうぞ
アナタ ありがと
アンタ また、いただきちゃった。
ウチ いつもありがとうございます。

キミ いえ、仲良くして頂いてるので。
ウチ いつ来られるか、いつも待っているんですよ

ウチ、一升瓶を持って奥へ

アナタ 今日は何？

アンタ なんでもええでしょ。

キミ どうしたんでしょう

アンタ 何があつたん？

キミ 何も、特に何もなかったんです。

アンタ 何もないって、

キミ 会えたんです、彼女に

アンタ そうなの？ それはよかったの？

キミ わかりません

アンタ そう

キミ もう、ここへ来る用もないんですけど

アナタ コーヒー飲みに来たんじゃろ

アンタ ほうよ、カフェーに来といて

キミ 贅沢なことですね

アンタ 優雅なんよね

キミ 言い様ですね

ウチ、お水をキミとアナタの分、持ってくる

ウチ お水、どうぞ

キミ ありがとう

アンタ コーヒーにする？

キミ じゃあ

ウチ 驚きますじー

アンタ 本物のコーヒー、飲んだことある？

キミ 本物ですか、このお店でなら

アンタ あれは代用コーヒーじゃったんよ。

キミ 代わり…

キミ、水を飲む

ウチ 本物を飲んだら、今までのは何だったんだってなりますから
キミ 代わりでも美味しいじゃないですか？

アンタ 本物の方がいいわよ。

キミ 知らなかったって何も変わらないですよ。

ウチ その、前のが良かったですか？

アンタ 何言うの

ウチ でも好みは人それぞれですから

アンタ 本物を味わっていただきたいわ

キミ 何が違うんですか？

ウチ 一度味わってみます？

キミ ……お願いします。

アンタ 早う まこつを差し上げて

ウチ 少々お待ちください

ウチ、奥へ

アンタ まず、匂いが違うから

アナタ 代用もえかったけどの

アンタ あなたもなの？

アナタ どっちもええ思うとるよ

キミ、水を飲んでみると、

キミ この匂いですか？

アンタ 本物の香りよ

キミ アタシはどんな匂いがしますか？

アナタ キミはね、冷たい蔵に置かれた百合の匂いがする

アンタ やだ酔つとるの？

アナタ こんなんで酔うか、真面目じゃ。

キミ それはどんな臭いですか？

アナタ ええ匂いには変わらんよ

アンタ ごめんね、気持ち悪くて

アナタ 上手うのうてすまんの

キミ いえ、良いように言おうとしてくださって、

アンタ 怒ってもええんよ

キミ、水を飲む

キミ 少し前の話なんですけど、
アンタ ええ、

キミ 少し：だいぶ前：アタシには親戚で年上の幼馴染がいました。歳が離れていたので、いつも遊んでくれて、その彼が海兵団に入ることになった時、アタシの夫となりました。彼は海兵団で呉へ行ったきり、二ヶ月に一度、手紙と生活費を送ってくれました。

アナタ キミの旦那も海兵団じゃったん？

キミ ーはい。戦争が終わる少し前、四日市にも度々、空に飛行機が飛び交うようになって、一日に幾度となく空襲警報が鳴るようになって、アタシは、一人で怖くて、ただただ生きたくて、生きてさえいれば、あ、夫とまたここで暮らせると、思っ、必死で逃げました。

ウチ、コーヒーを持ってくる

キミ ある真夜中、爆弾を落とされて、その時からこっちの手が動かなくなつて：燃え上がる町の中、ブラブラした片手を抱えて、どこに逃げていいやら、一体どこを歩いているやらわからない中、辿り着いた病院で、すぐに手術だ、と、ノコギリでアタシの手は切断されようとしていました。必死で抵抗して、逃げ出してしまいました。爆弾の音は耳に張り付いているみたいにならずと続く中、小学校を見つけ、一晩過ぎました。明るくなつて、家に戻ると柱は二つに折れ、傾いていました。そして、誰か人の手で押し入れからタンスから、ものが全部盗まれて、夫が送ってくれたお金も手紙も

アンタ ーよう話してくれて、

キミ 初めて話しました。

アナタ 誰にも言えんかったんか

キミ 誰に言えばいいのかも分からずで

ウチ あの、どうぞ

キミ ありがとう

ウチ うちも、空襲で、実家がめちゃくちゃになりました。

キミ それはお辛かったですね。

ウチ うち、体だけは傷ひとつ負うちよらんから、

キミ それは不幸中の幸いでしたね。

ウチ やから、働かないと、って町を出てしまつて、あなたはずっと、一人で、キミ 変ですよ。彼女に会うまでは誰にも話してはいけないと思つていたの

かもしれません。

ウチ 変なことないですよ。

キミ それで誰かを傷つけても

ウチ うちだつて、故郷を捨てたみたいに出てつて：あの頃、どんげしても苦
しかったから、

アナタ :

アンタ 今はどう思つとるの？

キミ 今、どうでしょう：あなたに初めてお会いした時、：彼女かと思いまし
た。その首の：空襲に遭つた後、醤油屋の親戚はここにずっといなさい、と。
しばらくはゆつくり休んでいなさいと、あれはもうダメだろうから、しばらく
くしたらいい婿を探してあげる。戦争のことは忘れなさいと。：アタシは広
島へ向いました。彼女の後ろ姿：首から肩にかけて酷い：本当は、あの人を
連れ戻そうと：あの人を両手で掴んで振り向かせたい、でもあの時、彼
女が両手であの人を掴んでいる、弱々しくも、しっかりと。そしてあの人も
:

アンタ :

キミ アタシ、あの人に妹つて言われていたんです。

アンタ 本当に？

キミ 本当に。

アンタ ひどい嘘ね。

キミ もういつそずっと兄だつたら良かった

アナタ キミもどうして、自分で妹つて？

キミ どうしたら良かったんでしようか？

アナタ そりゃ決まつとるじゃろ。

キミ : どうしても言えなかった

アナタ もう今は：そのまま言わんといてくれ。

アンタ 本当のこと言えないなんて：

ウチ 彼女に一番伝えたかつたんですよね？

アンタ ちよつと、あんた

アナタ 一番、伝えたらいいけん。

ウチ まぼろしでも見ちよれいうことですか？

アナタ わざわざ昔の傷を掘り起こさんでもええいうことよ

ウチ まだ昔のことじゃないんですよね？

キミ いつになったら昔になるんですか？

アナタ そりゃ、キミが思うたときじゃろう

キミ たぶん

アナタ たぶん？

キミ 彼女もまだ（昔になつていないんじゃないでしょうか）

キミは離れてゆく

アナタ、そのまま倒れてゆく

— 七 —

わたし、お水を持って、かのじよのそばへ

【広島市内 介護施設】

わたし お水、どうぞ

かのじよ ありがとう

わたし あったかい方がよかったですか？

かのじよ うち、白湯嫌いじゃけ

わたし え、そうだったんですか？

かのじよ 薬飲む時、白湯でしょ

わたし 体にはいいんですけど

かのじよ もうええじゃろ

わたし ええって？

かのじよ 体にええことしてもねえ

わたし 村上さん、また、そんなこと言って、

かのじよ うちの夫も、ようやかましゆう言いよってね、

わたし 村上さん、お元気なのはそのおかげですね、

かのじよ どうじゃろ、うちはあんまり気をつけとらんかったんじゃけど、夫

より長う生きてしもうてからに

わたし 女性の方が長生きだったりしますしね

かのじよ じゃあ、やっぱり、うちは気をつけん方が良かったわ

わたし そんなことないでしょ、

かのじよ ああ、ごめんね、うちの夫は、うちが早よ死ぬんじゃないかって思

うとったけえ、よう気い使うてくれとったんよ。夫がねえ、先に死ぬる時、

すまんの、すまんの言うて、うちの方がすまんのつて、思うたぐらい、申し

訳なさそうだね、

わたし …

かのじよ あ、ごめんね、

かのじよは、夏

わたし ああ、いえ、本当にお優しい旦那さんですね。
かのじよ ほうかね、
わたし そうですよ、仲良かったんですね
かのじよ ほうかね

かれ、現れる

かのじよ どうなんでしようね
かれ あれ、もうごはん、食べました？
かのじよ 食べましたよ
かれ 佐千さん、今日の、全部食べれました？
かのじよ 食べれなかった。
かれ 多かったですもんね。
かのじよ すみません
わたし 大丈夫ですよ
かのじよ 残すんはいけんの。
かれ 無理に食べて、気持ち悪くなったら嫌でしょ。
かのじよ お醤油かけたらもうちよい食べれるんですけど
かれ 濃い味好きなんです
かのじよ もうご飯の話ばかりして、
かれ 大事でしょ、佐千さんの体、どうなんかなって、心配しとるんです。
かのじよ うちのことはええ。
わたし 村上さん、まあまあ、
かのじよ アンタあ、ここでくっちゃべってええんね？
わたし くっちゃべつとるわけじゃないんですけど、
かのじよ 早よ、厨房行って、お客さんに運ばんと
わたし え？
かのじよ 早よ、運ばんと。
わたし あ、運ぶ、
かのじよ お給仕せんと
わたし お給仕？
かれ お水をおねがいます。
わたし あ、はい。

わたし、離れる

かれ どこ行くんです？
かのじよ うちも手伝おうかと、
かれ 大丈夫でしょ
かのじよ 覚えとります？
かれ え、なんの話でしょうか？
かのじよ 覚えとらんのですか？
かれ はい、いえ、何か言うてくれたらわかります。
かのじよ それを覚えとらん言うんです。
かれ 教えてくれませんか？
かのじよ いや
かれ なんで教えてくれんですか？
かのじよ 思い出して欲しいんです。
かれ ヒント、ヒント貰えませんか？
かのじよ うちを見とれば思い出すでしょう
かれ そうなんですか？
かのじよ 怒ってますからね。
かれ え？
かのじよ 覚えとらんことに。
かれ すいません。
かのじよ 思い出したら、許してあげる
かれ じゃ、許さないでくださいね。
かのじよ え？
かれ ずっと思ってたくれるんですよね。
かのじよ そんなこと言うの？
かれ ぼくは言います。

かのじよ、かれから離れる

かのじよ そんな人じゃったん。
かれ これから知ってくれるんではよ
かのじよ 知るも何も、
かれ 知って欲しいんです。
かのじよ ええんかの？

わたし、お水を持ってくる

わたし どうしたんです？
かのじよ アナタに関係ないでしょ
わたし そうかもですけど、
かれ あ、気にされることではないと思いますよ。
わたし いや、気にしますよ。
かのじよ なんでね、
かれ 佐千さんのこと、心配されてるんです
かのじよ 何の心配よ、
わたし この人が、村上さんのこと、なんかするんじゃないかって
かのじよ それこそアナタに関係ないわいね
わたし でもですね、
かのじよ わかっとるよ、うちのこと思ってくれてのこと言うんわ
わたし そうです
かのじよ じゃけいいうても、アナタも嫌じゃろ、自分のこと首突っ込まれたら
わたし そうですが：
かのじよ うちがどうなるうが、うちのせいじゃろ
わたし …そうなんですけど、
かのじよ アナタ、気にしすぎよね
かれ 佐千さん、そんなに、
かのじよ なんでよ、あなたもそう思うでしょ。
かれ まあ：
わたし 思うんですか？
かれ ちよつとですよ。
わたし わかりました。すみません
かれ あ、いえ、
かのじよ はっきり言わんと、
かれ あの
わたし 大丈夫です。
かれ …
わたし 村上さんもこう言ってるし、あなたにお任せします。
かれ はい。
わたし 頼みますよ。
かれ 大丈夫です。
わたし 村上さん、じゃあ。
かのじよ はい、ありがと

わたし、去ってゆく
わたしを見送るかのじよとかれ

— 八 —

かのじよ、アナタの側へゆき、座りアナタを見つめている
離れていたキミがかのじよに近づく前に、
わたし、かのじよを連れていく

【広島市・介護施設】

かのじよ ありがとう

わたし え？

かのじよ いつもありがとう

わたし いえ、こちらこそです。

かのじよ うちもなんかせんといけんて思うとるんです

わたし なにしてもらいましよう？

かのじよ なんでも言うて

わたし なんでもいいんですか？

かのじよ ええよ。

わたし 子どもって：

かのじよ 子ども、

わたし 息子なんですけど

かのじよ 男の子ね

わたし なんなのかなって

かのじよ なにて？

わたし 大事なんですけど、時々憎らしくもあって、

かのじよ そんなもんじゃろ

わたし 時々って言いましてけど、こうやって、働いてる時以外はほぼ思っ

ているんです。

かのじよ 大好きなん

わたし そんないいもんじゃ、

かのじよ 大事言うとったじゃないね

わたし 大事なんですけど、

かのじよ 大事にしよう思うたら憎むん？

わたし おかしいですよ？

かのじよ そんなことないよね、おかしいことかね？
わたし 誰にも言えなくて、

かのじよ それはエラかったね。

わたし エラいことばかりですか？

かのじよ どうじやろ？

わたし 村上さんもわからないんですか？

かのじよ そんなんわからんほうがあええよねえ

かのじよ、わたしに触れる

かれ、ご飯を運んで来たよう

かれ どうしたんですか？

かのじよ この人ねえ、エラかったからねえ

わたし 村上さん、

かれ 渡邊さん、僕には話してくれないですから

かのじよ そうなん？

わたし 村上さんにだけですから

かれ 僕も佐千さんにだけですから

わたし またそんなことを

かれ それは本当のことなので

かのじよ ほんまに？

キミが見ている

かれ これは、はい。

わたし ほんとみたいですよ

かれ 食べましょ

かのじよ、キミの方を見る

かのじよ なんか匂うね

かれ アジの南蛮漬けですよ。

かのじよ あのお醤油、まだあるの？

かれ もうなくなっただんですよ、

かのじよ あの匂いがする

わたし 醤油の匂い？

かのじよ お醤油と：ずっとお醤油の蔵にいた人の匂い
かれ 僕も知ってる匂いですよね
かのじよ 知つとるん？

わたし、離れながら

わたし ほんとですか？

かれ 食べましょ

かのじよ 食べようか

かれ この前、僕のおばあちゃんにご飯、食べさしてあげたんですよ最近ご飯
食べんようになったみたいで、まあ、片手が空襲で失くなって、食べづらい
って、

かのじよ その人は元気なの？

かれ 元気と言えば、元気：ですかね：刻んであげると食べるんですよ。僕が
お粥掬っておばあちゃんに食べさしてあげてるんですけど、おばあちゃん飲
み込むでしょ、したら、次に何食べたいか分かるんですよ、分かるいうか、
そのお粥が入つとる口の中に梅干しを入れた方が味が上手くなるんか、みそ
汁を入れた方が早よう飲み込めるんかが分かるんです。僕、おばあちゃん
口の中で料理しよるんですよ。それでおばあちゃん、ぶちぶち食べるんです。
自分で食べてた時よりぶちぶち食べるんです。僕、おばあちゃんにご飯食べ
させるのぶちぶち上手いと思うんですよ、最近。でも本当は自分で食べて欲
しいんですよ。僕が食べさしたら自分で食わんようになりますから、

かのじよ ええね

かれ あ、すいません、なんか嬉しくて、

かのじよ ええよ。

かれ 食べます？

かのじよ 食べますよ

アナタ、かれとかのじよを見ている

かのじよ 匂わん？

かれ 移動します？

かのじよ いつつも思うんよね。

かれ 僕、やりましようか？

かのじよ 何を？

かれ 僕、上手いんで。

かのじよ 食べられるよね。
かれ ですよね。
かのじよ うちね、待ったったん。
かれ なんですか？
かのじよ 貴方のこと、
かれ 佐千さん、一緒に造りませんか？
かのじよ うち？
かれ 一緒に醤油、造りませんか？
かのじよ お醤油、造れるんかしら。
かれ もちろん、僕も造り方よくよくは知らないんですが、
かのじよ 大豆から作るんよ。
かれ それは知ってる。
かのじよ 大豆を水洗いして、大釜で煮るんよ。
かれ よく知ってるね。
かのじよ 知らん方よ。
かれ 俺らの醤油造ろう。
かのじよ 売れるん？
かれ 料理には、欠かせないでしよ。
かのじよ ほうじゃけど。
かれ 一家に一台よ。
かのじよ ほうじゃけど。
かれ みんなに求められる、食卓にも欠かせない。
かのじよ どんなぶちまぜ料理でも？
かれ 一滴加えるだけで、あら不思議、醤油味！
かのじよ どんな暗い食卓も？
かれ 明るくする、笑顔、笑顔
かのじよ そんなお醤油を造る
かれ 造りましょ
かのじよ うち、早朝に起きる自信がない。
かれ どうして
かのじよ あの日から、ずっと眠れん。
かれ 寝ときんさい。
かのじよ 大事な仕事よ。
かれ 俺がやっつく。
かのじよ だめじゃって。
かれ せっかく二人で行くんじゃけん、そこは任せて。

かのじよ、かれを見つめる

かのじよ 貴方、

かれ なに？ 任せて

かのじよ ほんまに？

かれ ほんまよ。

かのじよ うちにして欲しいことない？

かれ それはあるよ

かのじよ なに？

かれ もうもらってる

かのじよ え、なに？

かれ 俺は醤油屋の若旦那で、佐千は女将で、二人で切り盛りする。

かのじよ どんなお醤油屋さん？

かれ 木桶の醸造を大事にする醤油屋。

かのじよ 木桶にうちの酵母が育ってゆくんじゃね

かれ そう、一緒に育てて、みんなに味わってもらう

かのじよ ええね

かのじよを掴むかれ

かれらを見つめるキミ

かれ ここ、退院したら

かのじよ 場所探す？

かれ 働いてお金貯めないと、

かれ、キミと目が合う

かのじよ どしたん？

かれ キミ、

かのじよ 誰？

かれ 匂いがする

キミ、かのじよが見る前に去ってゆく

かのじよ どこ行くの？

かれ、キミを追おうとする

かれの手を掴むかのじよ

かれはかのじよから離れてゆく

かのじよ 行かんというて、

かのじよが一人たたずむ

かのじよ あの人をずっと待って、待って

わたし、かのじよの隣に

かのじよ かれ、どこ行きました？

わたし かれ？

かのじよ お醤油の、

わたし 村上さん、ご飯まだ食べてないじゃないですか

かのじよ え？

わたし 一緒に食べます？

かのじよ 食べましょか。

わたし、かのじよを触る

かのじよ、わたしを見る

かれ、どこにもいない